



令和3年度 田中ゼミ
共生型福祉施設の展望
～共生型福祉施設『もりのひろば』観察からの学び～

仙台青葉学院短期大学こども学科 社会福祉ゼミ2年





共生型福祉施設『もりのひろば』の概要



共生型福祉施設『もりのひろば』とは

- 子どもから高齢者まで、また障がいの有無に関わらず、様々な人が一つ屋根の下で活動している施設
- たくさんの触れ合いを通じ、支えあい、地域で安心した生活が送れるように支援している



地域のコミュニティの中心



『もりのひろば』が目指す視点

- 大切に思ってくれる場所
- 頼ってくれる場所
- 楽しく、行きたいと思える場所
- 働きながら子育てできる場所





職員構成

- 介護福祉士

- ➡ 介護が必要なお年寄りや障害がある人に対して支援を行う

- 作業療法士

- ➡ 障害により身体的動作が困難になった方に「作業」に焦点を当てた支援を行う

- 看護師

- ➡ 医療や看護の立場から健康管理や医療行為を行う

- 栄養士

- ➡ 食生活の栄養指導に従事する

- 保育士

- ➡ 保育所などの児童福祉施設で児童の保育にあたる

※楽しく訓練できるようなアイデア提供・子どもの課題について相談業務



各種サービスの概要①

【高齢者デイサービス】

- 対象：要支援・要介護認定を受けている方
- 時間：月曜～土曜の9:00～16:15
- 利用定員：1日18名

＜サービス内容＞

- 認知症予防の為にレクリエーションや脳トレ
- 1対1での個別機能訓練、マッサージ
- 個室浴、大浴場での入浴
- 栄養士によるバランスを考えた四季折々の食事の提供
- 施設と自宅の間の送迎
- 健康チェック、健康相談



各種サービスの概要②

【放課後等デイサービス】

- 対象：発達の遅れや心身に障がいを持つ就学児童（小学生～高校生）
- 時間：授業終了後から17:00まで（学校休業日は9:00～16:00）
- 利用定員：10名

<サービス内容>

- 家庭と協力しながら子どもたちの成長のサポート
- 将来に向けて必要な療育プログラム支援の提供
- 子どものもつ特性に合わせた活動

放課後等デイサービスの 支援内容の例

【その日のスケジュール表】(写真1)

- 放課後等デイサービスに来てからのスケジュールが書かれている。
- 障がい児にわかりやすいように文字は大きく、具体的に書かれている。

【個別支援】

- クルクルと回る特性を持つ自閉症の子どもに対して、『回らなかった日はカレンダーにシールを貼る』⇒『貯まったらガチャガチャができるようにする』⇒『徐々に回らなくなるように支援』⇒**成功体験を可視化し自信に繋げていく**

(写真1)





各種サービスの概要③

【企業内保育園】

- 対象：生後3ヶ月～就学前児童まで
- 保育時間：標準利用時間 7:30～18:30
短時間利用 8:30～16:30
一時預かり 8:30～17:30
- 利用定員：12名

<特徴>

- 事業所内保育施設である一方で、地域の乳幼児の入園受け入れ、一時預かり保育、交流スペースの開放、相談なども行っている。
- 職員全員が保育士の資格を取得している。



職員の方に対する質疑応答の内容



Q1:なぜ、あえて共生型福祉施設を選んで働いているのですか？

- ダウン症児などに関わるのが元々好きだったから。
- 企業型保育を兼ね備えているため、家庭と職場のバランスを取りやすいから。
- 職員の子どもを施設内に預け、協力し合える関係が整っている為、「お互い様」と言い合える環境だから。

Q2:他分野職員の子どもとの関わり方や配慮している事がありますか？

- それぞれ意味を持って活動している為、流れを止めないように関わる。
- 理学療法士が保育園に実習に行くなどして、学んだ事をアレンジして活かす。
- 挨拶や礼儀などの一般常識を大切にする。



Q3:他分野の職員同士の連携の仕方はどうしていますか？

- 月1回の会議を通して各々の不安などを取り除く。
- 保護者とのやり取りを皆で共有する。
- 専門性のスキルを高めていく。
- 困ったら他分野の職員に聞く。

Q4:掃除などは全施設共通で行っているのですか？

- 共有スペースは役割分担をして、おおよそのルールの中で各自時間帯を見て行う。
- 触る人や場所によって、使用する薬の強さを変える。



Q5:働いているのやりがいや辛かったことはなんですか？

～辛かったこと～

- 共生型福祉施設を運営していく中で、市のルールや制度に合わせて運営すること。

～やりがい～

- 子ども達の成長を見届けることが出来ること。また、卒園式などで卒園したくない！と言ってくれること。
- 子どもにとって、森のひろばが安心できる場所になったこと。



Q6:環境構成で工夫していることはありますか？

- よりこの場所が楽しいと思えるよう、気の合う利用者・話の合う利用者同士で組み合わせをつくる。
- 子どもの特性を考慮して、職員の配置を事前に考えておく。

Q7:他分野の利用者と関わる際のトラブルの対応はどうしていますか？

- 各専門分野によって大まかな怪我やトラブル時の対応マニュアルがある。
- 他の部署と連携・協力を図り臨機応変に対応している。



Q8:利用者同士が関わる際の支援や配慮事項はどうしていますか？

- 関わることによってどんな効果や期待がもたらされるのかを考えて支援を行っている。

Q9:合同でのイベントはありますか？また、その際に何に気をつけていますか？

- 交流イベントととして、夏祭り・すいか割り・クリスマス会・餅つきが行われている。
- 長い期間を設けて、利用者全員が平等に行事を体験できるように配慮している。



Q10:職員間の連携はどうしていますか？

- 部署関係なく、利用者全員が安心・安全に楽しく過ごせるように、職員全員が同じ方向に向かって支援を進めていく。
- 栄養士は各職員と会議をし、一人ひとりの食事について把握している。(アレルギーや咀嚼力などに合わせてとろみ付け・固さ・大きさを変える)
- 『支援に必要なのは専門性ではなく人間性である』。ただし、利用者対応についてはそれぞれの専門性を阻害しない。



Q11:利用者の課題や困りごとをどう解決しますか？

- 他の資格を持つ職員から助言を貰う

例1) 箸等を上手く使えない子どもが保育園にいた場合…

知識を職員間で共有

→保育士は、介護職員や作業療法士の資格を持つ職員から助言を貰う

例2) 身体機能に障害を持っている子どもがいた場合…

話し合いを行い、利用者に合った形で提供をする

→子どもには、「遊び」「レクリエーション」という形で支援を行う



共生型福祉施設の様子 の例 『高齢者と子ども達の関わり』



いつもは無愛想で笑わない高齢者の方



子どもたちの元気な様子を見て、笑顔になる高齢者の方



不愛想な高齢者も、普段より表情が柔らかくなる



共生型福祉施設の様子 の例 『障害児と健常児の関わり』



施設内に入ろうとしない、ダウン症児



赤ちゃんのお世話を提案する保育士



役割を与えられて動き出したダウン症児



共生型福祉施設のメリット

〈高齢者〉

- 多様な人の交流が可能になる
- 子どもと接する→運動量の増加
- 脳の活性化

〈子ども〉

- 思いやりの気持ちをもつ
- 他者に対する偏見・差別がなくなる

〈障がい児〉

- 多様な方との関りによる社会性の構築



共生型福祉施設のこれからの課題



- 関わりを持つことが難しい。

(解決策) 行事を通して関わりをつくる。

(例) 運動会→高齢者が応援をする。

- 各領域において専門性が高い部分がある。

(解決策) 先入観で行動しないようにし、話し合いの場をつくり、問題を解決する。

- 衛生面での管理が難しい。(給食の動線など)

(解決策) 自治体や国で定める基準をクリア出来るような工夫をする。



まとめ
～私たちの学び～



職員間でのコミュニケーションの在り方

高齢者の環境、障がい児の環境、保育の環境が一緒くたになっていて連携が難しいように考えられる。

しかし、職員の視点や配慮によって、共生が可能となる。

他職種間であっても、日常的な話し合いや、意識の共有、お互いの知識や情報を共有することにより、適切な支援ができる。



多様な人間関係による役割の出現

施設内で自分に役割が生まれることによって、その役割に対して、責任感や自己肯定感、やりがいを持つことができる。

自分とは、異なる立場の人間が集まる共生型福祉施設だからこそ、多様な人間関係があり、その中で役割が出現し、互いが良い作用をし合っているといえる。



支援に必要なのは「専門性ではなく人間性」

学校で習ったことをただ実践するのではなく、一つ一つの支援に思いを乗せなければならない。

つまり必要なのは、相手を思いやることができる人間性であると考える。

保育者は子どもと関わる専門家ではなく、人と関わる専門家でなければならない。



私たちが意識するべきこと

誰に対しても、思いやりを持って関わること。



～ご清聴ありがとうございました～